

若年世代と老後の不安

研究開発部
矢口 和宏

近年、「将来への不安」とか「老後の不安」という言葉がよく聞かれる。この理由には、不況による所得減少やリストラの不安、さらには、社会保険財政の逼迫による社会保障給付の不安によって、経済的な将来展望が持てないことにあると考えられる。また、さらには、政治への不信感や社会全体に蔓延している閉塞感等にも原因が求められよう。

<将来不安が消費減少を呼んでいる>

経済的な将来不安は消費にあらわれている。日本銀行の調査によれば、1年前と比べて支出を減らしたという回答(38.9%)は、増やしたという回答(6.5%)よりも多い。その理由としては、「将来の仕事や収入に不安があるから」や「年金や社会保険の給付が減るのが不安だから」といった将来不安に関することの方が、「収入が頭打ちになったり減ったりしているから」といった現状よりも多く(図表1)、将来不安という予想が支出減少という行動に影響を与えている。

<若年世代にも老後の経済不安が浸透>

経済的な将来不安は貯蓄にもあらわれている。金融広報中央委員会(旧貯蓄広報中央委員会)の調査によれば、貯蓄の目的として「老後の生活資金」をあげる回答は「病気や不時の災害への備え」について2番目となっており、依然として高水準である。また時系列的にみても、「老後の生活資金」目的は増加傾向にある(図表2)。

この傾向は若年世代にもあらわれている。絶対数は少ないが、20歳代でも「老後の生活資金」目的をあげる回答は増加傾向にある。特に昨年は、全体では減少したのにもかかわらず、20歳代ではわずかながらも増加している。この背景には、社会保障給付の不安があると推測でき、若年世代にも経済的な老後の不安が浸透しつつあることがうかがえる。

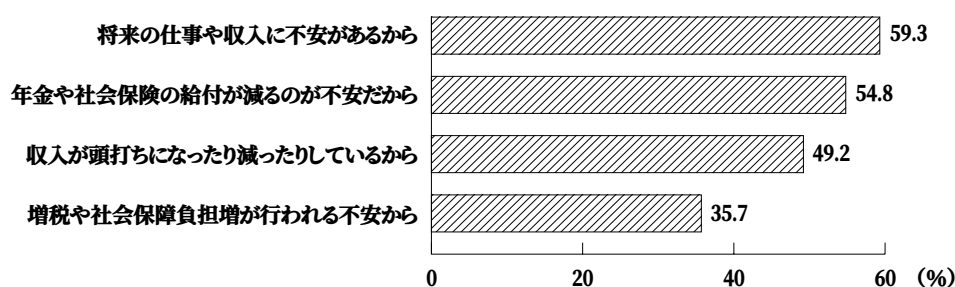
<結婚にあらわれる精神的な老後の不安>

若年世代の老後の不安は経済面だけではない。図表3は結婚願望のある新成人について、その理由を尋ねた調査である。そこでは、「年をとってから寂しいと思うから」という老後の不安をあらわした回答は、男性で27.9%、女性で53.4%となっており、それぞれ第4位と第3位である。この回答の割合は、「結婚はあこがれだから」とか「価値観を共有したいから」といった回答よりも高い。

一方、「愛する人と一緒にいたいから」という回答は、男性で67.4%、女性で73.6%が回答しており、それぞれ第2位と第1位である。しかし、昨年と比較すれば、男性で13.6ポイント、女性では6.6ポイントもそれぞれ減っており、結婚が愛情だけでは割りきれなくなってきたことも示唆している(図表4)。将来、年をとって一人になった時に寂しいという精神的な老後の不安が、若年世代にも浸透しつつあり、その姿が結婚観の変化にあらわれたのかもしれない。

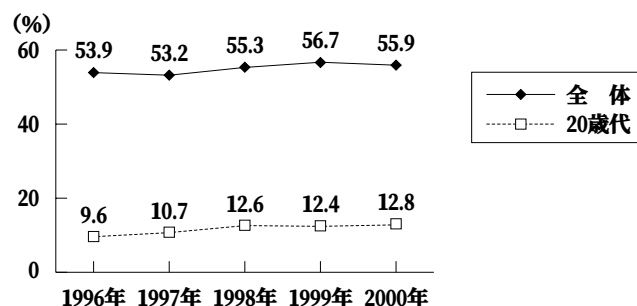
今月から来月にかけては結婚式シーズンであり、至福と充実の時間を過ごしているカップルが多いであろう。なかには、老後の寂しさの緩和だけで結婚するカップルもいるかもしれないが、いつまでも仲良くしていつもらいたいものである。

図表1 1年前と比べて支出が減った理由(複数回答)



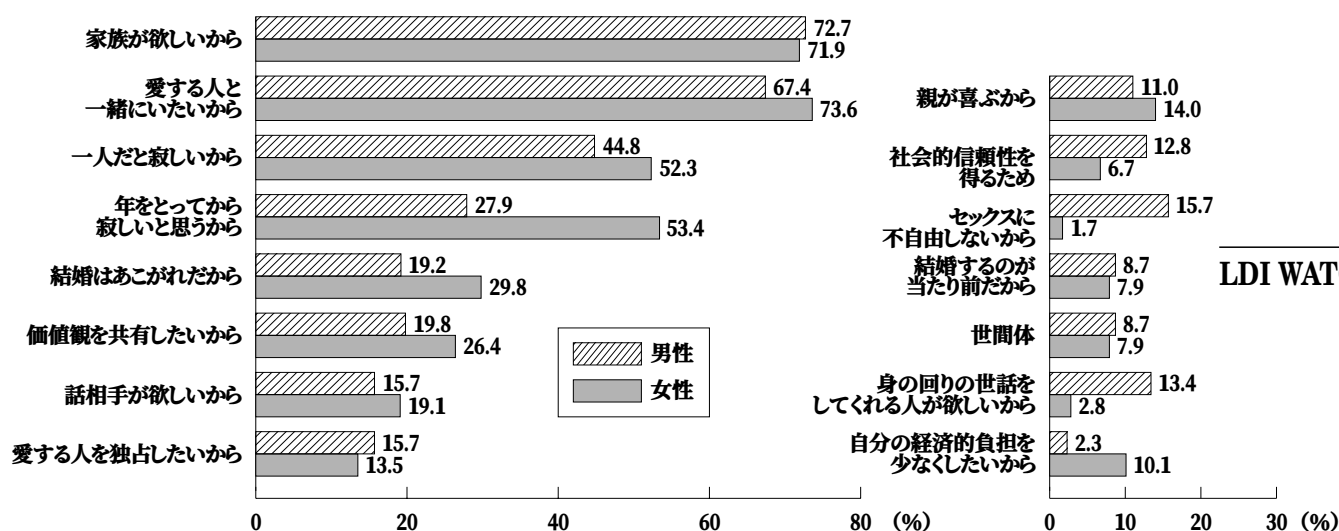
資料:日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」(2000年12月)
調査時期:2000年9月~10月、調査対象:全国の20歳以上の男女個人、有効回答:3,150人

図表2 貯蓄の目的に「老後の生活資金」をあげた割合



資料:金融広報中央委員会(旧貯蓄広報中央委員会)「貯蓄と消費に関する世論調査」各年版より作成

図表3 結婚願望の理由(複数回答)



資料:(株)オーエムエムジー「2001年新成人の恋愛・結婚意識調査」(2001年1月)
調査時期:2001年1月、調査対象:首都圏と阪神圏に住む新成人400人(有効回答)
注:この設問は、新成人400人のうち結婚願望のある350人が回答

図表4 上位3回答の対前年変化率

	男 性	女 性
家族が欲しいから	+9.6%	+4.1%
愛する人と一緒にいたいから	-13.6%	-6.6%
一人だと寂しいから	-6.6%	+6.0%

資料:(株)オーエムエムジー「新成人の恋愛・結婚意識調査」各年版より作成
注:「家族が欲しいから」という回答肢は、2000年の調査では「子どもなど家族がほしいから」であった。
そのため、対前年比較の数字は厳密なものではない。